



こんなことあったよ! のしろ白神ネットワークの活動レポート

平成 24 年 7 月 5 日 (木)、6 日 (金)
大槌町の仮設住宅に木橋架設 編

東日本大震災の被災地である岩手県大槌町の復興に向けて、秋田県立大学木材高度加工研究所では、平成 24 年 5 月に同町と復興支援に関する協定を締結しました。

協定では、失われずに残った町の財産である町有林を、町の復興に活かすための方法を考えることを約束していますが、支援の一環で、町内の仮設住宅団地に前述の木橋（長さ 6.3m、幅 3m）を架設することになりました。

震災直後に被災地の橋梁調査を行ったところから、何か研究成果を使った復興支援ができないか、災害時に役立つ技術開発ができないかと、秋田大学や県内企業と共同で組立や解体が容易な木橋の開発を進めてきましたが、その橋を町に紹介したところ、仮設住宅団地の住民からの要望で、駐車場との間にある水路を渡るための橋が欲しいとの声があったことに応えて、試験的に架けてみることにしました。

7 月 5 日にに行った橋の工事では、ウッディさんないで加工した木材など橋本体の材料を秋田から運び、施工は木橋を共同開発した秋田市の日本機械工業（株）が行い、5 時間ほどで完了しました。このくらいの作業時間なら災害時の応急橋としても十分使えそうな気がします。この橋の用途は仮設住宅の使用期間に限定した仮設橋なので、使用期間が済めば解体することになりますが、組み立てに要した時間があれば解体も可能なことを実験で確認しています。



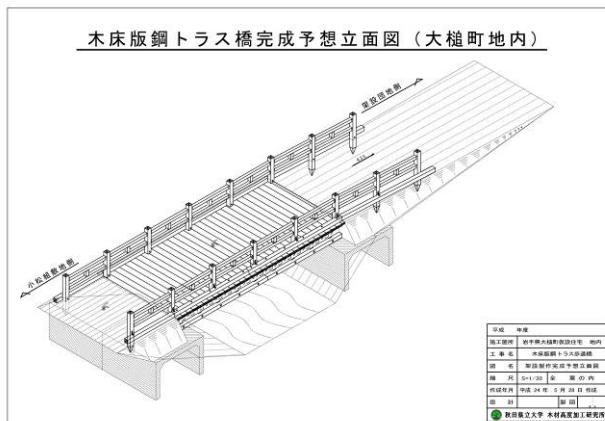
大槌町と木高研の協力協定（大槌町役場にて、碓川町長（左）と飯島所長（右））



開発した木橋の強度試験（木高研）



大槌町第 9 架設団地の建設予定地の測量



橋の完成予想図



コンクリートブロックを活用した橋台（地元の建設会社小松組さんの協力）



こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

翌日6日から、歩行者用の高欄（手すり）の設置工事と橋までの道路の工事が、地元の建設会社や製材所の協力で行われました。

こうして無事に完成した木橋は、仮設住宅に暮らしている方に喜んで使ってもらっているようです。お盆前に訪ねたとき、橋の手すりに「安堵橋」と立派な橋銘板が付けられているのを見つけました。ここに住むのは港の近い安渡地区に暮らしていた人が多く、地域の名前にちなんで付けられたそうです。

岩手県大槌町は釜石市の北15kmほどに位置し、漁業を中心として栄えた町ですが、震災後は津波の被害を受けずに残った町有林を活かし、雇用創出や町営住宅への活用も進める復興計画を考えています。今後は、木橋の他にも仮設商店街へのウッドチップ舗装、液状化対策での木杭による地盤改良なども検討されており、将来的に、こうした土木分野での地元木材の利用が町の技術の一つとして活用してもらえるよう支援を続けていきたいと思ひます。 文： 佐々木 貴信



橋の組立開始
(仮設住宅前の駐車場で)



橋の組立完了直前
(ここまでで約2時間)



地元大工さんによる手すりの設置
(材料は地元産のスギ)



クレーンで橋台に設置
(黒いのは防水シート)



完成した安堵橋



床板と縁木の設置で橋本体の完成
(ここまでで約5時間)